共同子育て連絡会通信 6号

2023年２月

共同子育て連絡会通信６号は、学習会『子どもが出会うおとなが考える～子どもが居る場所で、今、気になっていること～』をテーマにして意見交換し、出された課題を踏まえて考えたことやその後に届いたお声を記載しています。下記、学習会お誘い、ワークショップご案内に皆さまからの申し込み、お待ちしています。

子どものけんり　なんでやねん！すごろく
子ども＋おとなでやってみよう

日時：3月10日（金）＆　3月25日（土）
両日　10時半～11時半
場所：HRCビル402号（港区波除4-1-37）
対象：幼児～おとな
参加費：無料
申込み：各前日までに下記へお電話で

子どもの権利条約スタンプラリー
子ども＋おとなでやってみよう

日時：3月21日（火・祝）
11時～15時
こどもパラダイス時間内
場所：港区民センター
対象：幼児～おとな
申込み：前日までに下記へお電話で

学習会のお誘い
「子どもが出会うおとな」が考える
～子どもが居る場所から、こども基本法の課題を話しあう～

日　時：2023年４月15日（土）10時～12時
場　所：HRCビル402号（港区波除4-1-37）　＆　Zoom
対　象：どなたでも
参加費：無料
オブザーバー：田中文子、山下裕子
申込み：準備の都合上４月11日までにご連絡をお願いします。

公益社団法人子ども情報研究センター　「共同子育て連絡会」
メール：renraku@kojoken.jp　合田由紀子　中山和子　南田安紀子
電話：06-4708-7087　住所：大阪市港区波除4-1-37　HRCビル5階

「子どものけんり　なんでやねん！すごろく」まずは、おとながやってみて、考えて、話してみようの会に参加しました。

＝インスタグラムでの主催者案内＝
日本ではなかなか勉強する機会も少ない「子どもの権利」でも子どもはおとなと同じように1人の人間としての権利を持ち、さらに成長途中である子どもならではの権利も持っています。ユニセフが定めた「子どもの権利条約」と、具体的な事例を楽しく学べるこのすごろく🎲
子どもが感じる理不尽(＝権利の侵害)を集めた「なんでやねん！」のカードは、子どもたちによって書かれたものだそうで、すぐに取り寄せました。 だって私、人権大好きなんだもん(どういうこと？)
主催：550_mommy

最後のフレーズがどういうことだろうと思ったので、参加させてもらいました。
参加して感じたことは、音楽が好き、運動が好き、描くことが好き･･･と同じ感覚で、人権が好きと伝えられている。ご自身が理不尽だと思う気持ちに正直に向き合っているところからの言葉だと思いました。
私自身は、人権の思想に触れたり、理不尽だと思うことを聞いてもらったり、話しあったり、社会改革する運動につながっていくことは、自分を楽にしてくれると感じています。そう感じられる場でした。
７人ですごろくをするうちに、まずは親がやってみることが必要よね、学校の人権啓発委員になってみようか、家で子どもとやってみたいな、性教育の学習会で感じた感覚に似ているな、性教育の切り口でも、広めていきたいねなどのつぶやきも聞けました。当日は２グループに分かれて実施。プレイパークの活動をされているメンバーも多く、出会いに感謝です！（南田）

今、思うこと～園での親との共同化

こども園の生活発表会で、気になったのは、園長先生の始まりの挨拶でした。「終わった後はたくさんほめてあげてくださいね」的な言葉が、大きな声で繰り返されました。幕の後ろではじまりをドキドキしながら待機している子どもに聞かせたくないから気になったのだと思います。相手が子どもだから聞こえてもいいと言うふうに感じましたし、子どもが「園長先生が言ったからほめてる」と感じるのではないかとも思いました。
親として行事の日には、こども園での子どもたちの日々の積み重ねを感じたり、子育て仲間の存在をうれしく思ったりしてきました。前日には「ずっと練習がいいな。練習は失敗してもいいけど発表会は失敗したらあかん」と不安モード。これまで、セリフの変更があっても、うれしそうに話していただけに、子どもは真剣だったのだと思いました。
いつかの行事の前は、給食やおやつがスペシャルで、園全体で応援してくれて、やる気になっていたので、よかったなと思いました。
親が感じる自然な感情や気持ちを、園側が奪ってはダメだなと思います。子どもにとってよかれは、おとなが決めることではないのだと改めて考えさせられます。「うちの子、なぁんにもしなかった」と笑顔で語ってくれる親にも出会っていました。その子のそのままを受け止める姿勢はステキだなと感じます。その子にはその子の気持ちがあり、親にもその人の気持ちがあります。
アンケートに書いたので、園長先生と話せましたが、伝えるのはむつかしいなって感じました。（保護者の声から）

学習会　「子どもが出会うおとな」が考える
子どもが居る場所で、今、気になってること

＊アリッサム

2023年1月14日
参加者19人

自己紹介の後、順に思うことを話した2時間でした。

コロナ下で感じること

小中高生の子どもたちの群れて遊ぶ機会が減り、からだを使う経験、コミュニケーションする場等いろいろなおとなと出会う機会が減った。

友達と外に遊びに行くことがなく、人間関係をつくる経験が足りてない気がする。けんかわちゃわちゃがなくて、乳幼児期の子どもが過ごす広場でも、人との距離をとる親が多い。

マスクをしているので、乳児の保育を担う時、お口モグモグが伝わるか気になる。目を見て、喜怒哀楽をていねいに伝え合いながら保育したい。

子ども同士が出会って触れ合う機会は、マスクに妨げられることもあるかもしれない。顔を見ないままに過ごしてきたことをおとなが気にすると、子どもも気にするのかな。マスクをしていてもつながることはできるし、マスクに負けたくないね。

体力が減ったとデータ化されると、運動教えます的な、不安につけこんだ商売が増える。行政は、安心安全のためにと、公共の場を自由に使えない利用規約で縛ってくる。

親の気持ちが楽になる場は復活してきたかな。

子どもに出会う機会はどうだろう。広場で手遊びして子どもが笑い返してくれる。そのことが、おとなの気持ちを豊かにしてくれている。

おとなにも出会っていないなと思っている。けれどこの場で話していると、おとなの向こうにいる子どもに出会えている気持ちになる。

個人モデルから社会モデルへ

不登校の子どもは、その子どもに原因があるということになりがち。メンタル弱い？周りに周知してもらえない、声を聞いてもらえないなど、世間の風の冷たさがある。先生としっかり話すと、希望を感じることもある。子どもの周りにいるおとなの力量によって子どもに影響が出る？のも辛い。

人に受け止めてもらうことで、子どもが気持ちを出したり、やりとりする経験を重ねたい。子どもは分かってもらえない、決めつけられるという経験から、子ども同士の人間関係も気にしている様にも思う。

中高生への支援の場が少ないように思う。おとなの言葉に傷つく子どももいる。乳幼児期のつながりが続いていけばいいなと思いながら広場に関わっているし取り組んでいきたい。

人に迷惑をかけてはいけない、失敗してはいけない風潮にストップをかけていきたい。あかちゃんは人に迷惑かけまくり。でも、それが人間の持つ本来の姿、自らつながろうとしている。人間は人とつながる力をもっている。今は、自然のままに生きる力を阻害されているだけではないか。窮屈な今の社会状況。個人を追い詰める社会から、一歩を踏み出そう。

あかちゃんはおとなを求めている。そこを、あきらめる時があるのであれば、こんなおとながいるのだと発信していきたい。すみませんではなく、ありがとうございます～と頼っていきたい。乳幼児期の広場は、親が連れて行かないと、子どもは参加できない。どんな子どもでも参加できる時空間を模索していきたい。

何人もの子どもが自ら命を絶っている。助けてくださいって言ってるのに、直接いじめられてるわけではないけど、おとなは助けてくれない。相談窓口で、子どもが闘っている。家庭相談室やチャイルドラインなど、私たちにできることもある。子どもの気持ちが動くことを経験してほしい。奪われているのはそういうことかもしれない。まずは身近な活動から、子ども参加を考えていきたい。

今、思うこと～子どもとおとなの幸せって

子どもの幸せが 親の幸せ
親が幸せだと 子どもも幸せに…
そうなのかな？
親は親、子どもは子ども
別の人格を持った別々の人間
ママの笑顔が子どもの笑顔をつくる
ママはいつも笑ってなければいけない
そうなのかな？
ママだっていろいろな感情が溢れてる
気持ちが揺れてもいいよね。
ママは子どもの前で泣いてはいけない
なぜ？　子どもが動揺するから？
泣くことは悪くないし、感情が吐き
出せて心が整うこともある。
泣いてはいけない 笑って笑ってー
泣きたい時に泣けないなんて
そんな息苦しい中で子育てしていたら
小さな子どもでもおとなの表情から
何かしら 感じることもあるのでは。
辛い、苦しい、モヤモヤするとき
楽しいとは真逆のところに気持ちが
ある時におとなが笑っていられるのは
自分を偽っているか　諦めているか
自分なりにモノゴトを受け入れているか。

＊ヒメムカシヨモギ

ママ支援！にフォーカスし過ぎると「やっぱり子育てはママの役割」というところに持っていかれる。
目に見えないジェンダーバイアスを被せられている気がしてならない。
パパ出番や地域社会ともつながって子どももおとなも多様な人の中で、いろいろな感じ方、考え方に出会い豊かに育ちあいたいな。
人間をつくるのは人間だから（K）